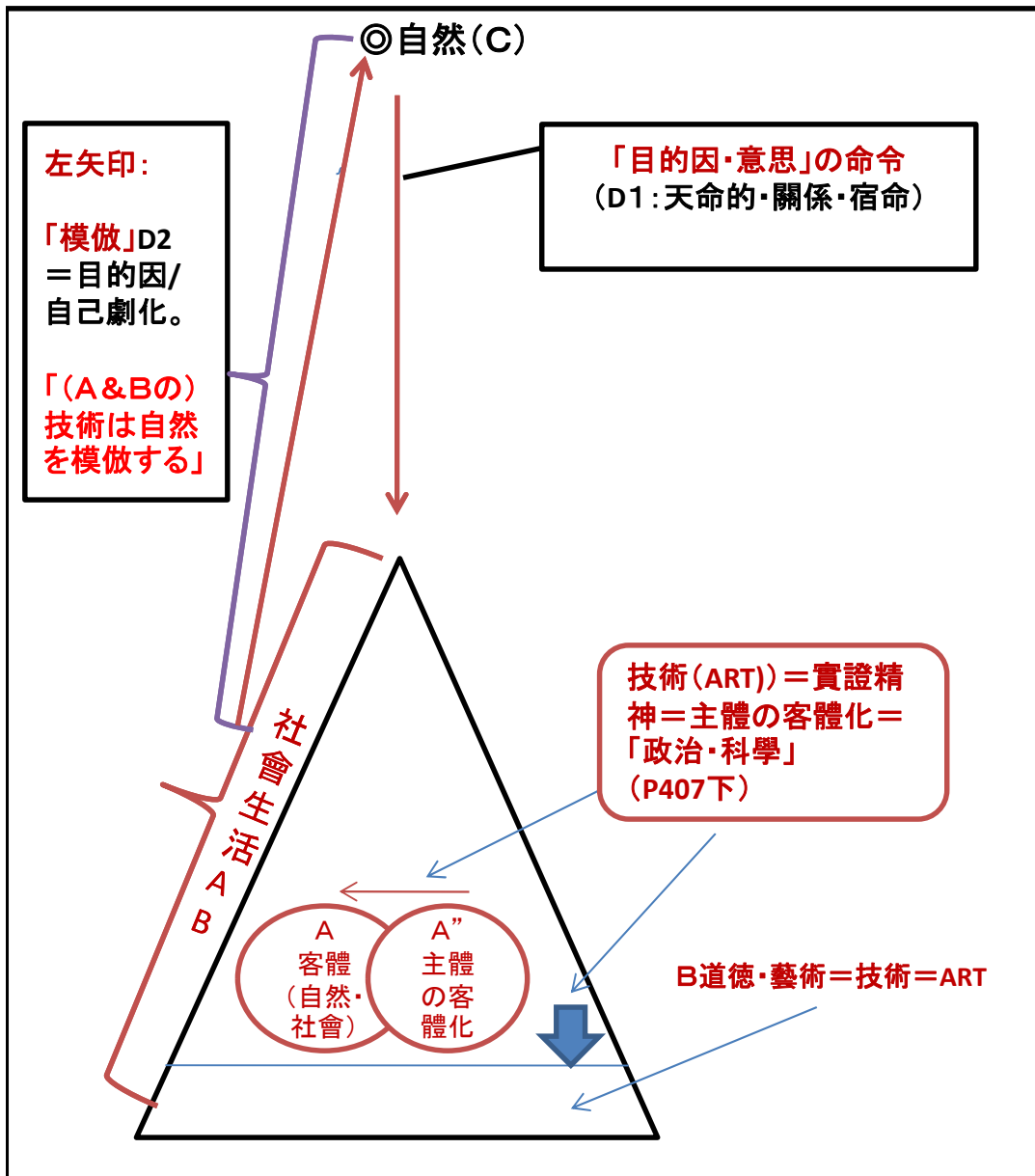


「アリストテレスが考へてゐた技術」(P405~7)。



〔關係論〕

自然(C)⇒からの関係:自然に内在する目的因・意思の命令(天命的・関係・宿命・D1)⇒「模倣D2」即ち「目的因の命令(宿命)/自己劇化」。

この様にアリストテレスの「自然・技術」論を捉へる事が可能となると、又、406上文「その混亂を整理し、抑制する價值觀を吾々は持つてゐない。アリストテレスはそれを自然の意思のうちに見出し、それに合致する様に社會生活を整へるのが政治や道德の技術であると考へました」云々の文章に遭遇すると、おのづとそこから連想が生じて、恆存の「全體(c)論」(「完成せる統一體としての人格」論)が小生には浮かんでくるのである。其處にはアリストテレスの影響が反映されてゐる様に窺へる。

注:「完成せる統一體としての人格」論は「テキストP10圖」を参照。

「われわれが敵(自己を超えたる場:C)としてなにを選んだかによつて、そしてそれといかにたたかふ(宿命/自己劇化)かによつて、はじめて自己は表現せられる(創作対象に)のだ。..」

各文人別 「われわれが」	大主題 (C) の発見： 「敵 (自己を超えたる場)」	「新限定」 (天命・関係・宿命) 「としてなにを選んだか (宿命選擇) によつて」	中主題 (C” 文學) の創造：「そしてそれといかにたたかふ (宿命/自己劇化) かによつて、自己が表現せられる」	小主題の創作 「表現せられる (創作対象に)」即ち「現實的客體化」
森鷗外	「背後の道德」	天命 (儒教道德=至誠・武士道)	歴史小説・史傳	義=仇討ち=『護持院原の敵討』・忠=切腹=『堺事件』・孝=『高瀬舟』・全般=『渋江抽斎』等々
漱石	「背後の道德」	天命	「自己本位」 (彼我の差に踏み留まる?)	小主題 (『私の個人主義』・各小説他)
二葉亭	「國家」=Cの代はり	國命	國士として活動	洋行
ルソー	「神」	神意	『告白録』	神・C:「思想に自己を賭けた」描写 P 414 下
フローベール	夢想 (理想人間像)	神意	近代自我 (個人主義) 否定	『ボヴァリー夫人』他。 (神・C・夢想「思想に自己を賭けた」描写。しかし、夢想は作品には登場しない)
チャーホフ	「空家 (神不在)」にたへる	「無執着」「底意のない眼」	近代自我 (個人主義) が自己解釈「獨り合點」する意識 (D3) を「在るがままに描く」	各戯曲・小説 他
ハムレット	先王の亡霊 (C:王権神授)	君命:王権奪還「關節を治す」	復讐	各章:「めまぐるしく行動しながら、意識の世界では (敵・新限定から) 一步も動かず」
恆存	絶對・全體	誠實	「關係と言ふ眞實を生かす」=フィクション	文學評論・演劇・政治論 他